

明治大学

大学解剖

に英語で説明する課題をこなしていた。

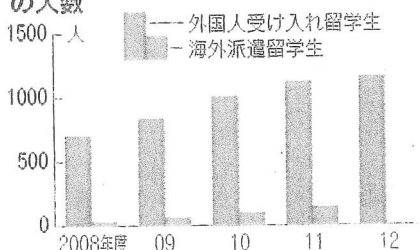
3大学共同授業

1時間半の授業は、教員も学生も英語しか話せない。昨年からは明大が立教大学、国際大学(新潟県南魚沼市)と共同で実施している「国際協力人材育成プログラム」の一



明大は国際大学キャンパスでグローバル人材を育てるための集中講座を実施

明大の外国人留学生、海外派遣留学生の人数



国際化出遅れ取り戻す

「この事例では二カテゴリーで貧困にあえぐ農家に技術指導し、収穫物をホテルに納入できるネットワークを作りました。観光客に消費してもらった流れをつくれれば、農家に安定収入が入り貧困を減らすことができます」

5月1日、明治大学の和泉キャンパス(東京・杉並)。学生はチームごとに与えられた教材をその場で読み込み、5分後

コマだ。この日は、途上国で観光業の成長を促すことにより貧困撲滅につながるという視点が新鮮だった。留学生だけでなく、日本人学生の関心も集めていた。本人学生だけでなく、日大の福宮賢一学長は「立教大、国際大、3大学共同プログラムへの学生の関心はとて高く1000人が説明会に参加した。総合数も増え、大学間競争は激しくなる。明大がグローバル人材を育成できる制度を整備を急ぐのも、そうした危機感が大きい。明大の転機となったのは、文部科学省の国際化

国際大を系列に、留学生増

拠点整備事業「グローバル30」に採択された13校のうちの1校に09年、選ばれたことだ。経営資源の配分が従来の一律型からメリハリ型に移行し、学内で学部、研究科の間の競争が強まった。魅力のあるプログラムが自発的に立ち上がってきている。と、国際交流担当の勝悦子副学長は話す。

現在、明大では5つの学位を英語授業で取得でき、学士では国際日本学部、修士では経営学や建築学などが対象だ。それらを含めて、英語で実施する授業は全学で約410科目あるが、3年後に530科目に引き上げることを目指す。

日本人学生が英語を使いこなせる環境を整えるだけでなく、途上国や新興国・途上国のエリート層も多く、修士を取得した後に明大の博士課程に進む道筋もつけ、各国のリーダーを育てたい。次の課題となる。

（勝悦子副学長）という。

早稲田の1.3

全学あげて、急ピッチで国際化戦略を加速している明大。早くからグローバル化に取り組み留学生数も多い早稲田大学や慶応義塾大学に比べた後は、明大自身が自覚している。

例えば受け入れ留学生数は早大の3分の1ほど。福宮学長は「自分の頭で考え自分で判断できる人材を育てたい。グローバル社会の中では、しなやかにたくましく生き抜くことが問われるから」として独自の立ち位置を突き詰める構えだ。

新卒採用市場でも、明大卒業生は民間企業から泥臭さやタフさを評価される傾向が強いという。